



**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	卒業生及び在校生による平成 17 年度改訂カリキュラム評価に関する調査報告 - 質問紙調査及び懇談会より -
Author(s)	正岡, 経子;大日向, 輝美;松山, 清治;小塚, 直樹;仙石, 泰仁;藤井, 博匡;佐藤, 利夫
Citation	札幌保健科学雑誌,第 1 号:111-118
Issue Date	2012 年
DOI	10.15114/sjhs.1.111
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/5394">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/5394</a>
Type	Technical Report
Additional Information	
File Information	n2186621X1111.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

報告

## 卒業生及び在校生による平成17年度改訂カリキュラム評価に関する調査報告 - 質問紙調査及び懇談会より -

正岡経子<sup>1)</sup>、大日向輝美<sup>1)</sup>、松山清治<sup>2)</sup>、小塚直樹<sup>3)</sup>、仙石泰仁<sup>2)</sup>、藤井博匡<sup>4)</sup>、佐藤利夫<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 札幌医科大学保健医療学部看護学科

<sup>2)</sup> 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

<sup>3)</sup> 札幌医科大学保健医療学部理学療法学科

<sup>4)</sup> 札幌医科大学医療陣育成センター

本報告は、平成17年度改訂カリキュラムに対する卒業生と在校生の評価をまとめたものである。調査方法は質問紙法と懇談会で、質問紙の内容は(1)カリキュラムの総括評価、(2)カリキュラムの編成・内容に関する評価、(3)カリキュラムの運用に関する評価、カリキュラムに対する意見や要望(自由記載)とした。懇談会は、学科ごとに4~6名を対象に6回開催し、上記3観点からの質問と質問紙調査で評価の低かった項目について自由に発言してもらった。

質問紙は194部回収された(回収率53.2%)。分析の結果、学生は教育目標の達成状況を概ね高いレベルで達成していると評価していたが、国際性に関する教育目標の評価は低い結果であった。カリキュラムの編成・内容に関しては、一般教育科目に対する評価が低く、一般教育科目と専門科目の編成バランスや学年配当に対する満足度が低い傾向にあった。カリキュラム運用に関しては、履修指導・相談や教員・科目間連携で低い評価であることがわかった。

キーワード：改訂カリキュラム、学生評価、学士課程、質問紙法、懇談会

### Evaluation by Graduates and Undergraduates of the Revised 2005 Curriculum of the School of Health Sciences, Sapporo Medical University —Results of Questionnaire Survey and Round Table Meetings—

Keiko MASAOKA<sup>1)</sup>, Terumi OHINATA<sup>1)</sup>, Kiyoji MATSUYAMA<sup>2)</sup>, Naoki KOZUKA<sup>3)</sup>,  
Yasuhito SENGOKU<sup>2)</sup>, Hirotsada FUJII<sup>4)</sup>, Toshio SATO<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

<sup>2)</sup> Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

<sup>3)</sup> Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

<sup>4)</sup> Center for Medical Education, Sapporo Medical University

This report summarizes the results of a survey on the evaluation of the revised curriculum which came into effect in the academic year 2005-2006. The graduates and undergraduates educated under the revised curriculum were invited to participate in the questionnaire survey followed by round table meetings. The questionnaire asked the respondents to evaluate and give honest feedback on (1) the overall performance, (2) structure and contents and (3) administration of the curriculum. The meetings were held six times where four to six respondents representing each department were invited to discuss freely the curriculum and additionally the areas that had not attracted a high rating in the questionnaire survey.

194 questionnaire forms were returned (53.2% response rate). The curriculum performance was generally rated highly; more than 70-80% of the respondents replied the academic objectives had been achieved, except for the objective regarding internationalism. The areas that were rated relatively low (40-50%) were the contents of the general subjects, as well as administration matters such as guidance, counseling, communication among faculty members and inter-subject liaison. Dissatisfaction with the balance in the curriculum structure and allocation of subjects to each year was also raised.

Key words : revised curriculum, evaluation by students, bachelor's degree program, questionnaire survey, round table meeting

Sapporo J. Health Sci. 1:111-118(2012)

## はじめに

札幌医科大学保健医療学部は、保健医療に関わる多職種を養成する教育機関として教育目標を掲げ、学部特性を活かしたカリキュラムを展開している。

カリキュラムとは、学生の成長を意図して整えられた教育計画であり、教員が立案し実施・運用することによって展開される。教員は常にカリキュラムの点検・評価を行い、効果的な学習活動のために改善する責任を担うが、その過程にはカリキュラム体験者の参画が不可欠とされている<sup>1)</sup>。そこで、カリキュラム委員会では、学部の教育目標の達成状況から教育効果を検証する目的で、平成17年度改訂カリキュラムによる教育を受けた在校生および卒業生を対象に質問紙調査と懇談会を行った。本稿では、その結果を報告する。

## 対象と方法

### 1. 調査対象

質問紙調査は、平成17年改訂カリキュラムによる教育を受けた平成20、21年度の卒業生175名（看護学科93名、理学療法学科41名、作業療法学科41名）、および第4学年、第3学年の在校生190名（看護学科102名、理学療法学科43名、作業療法学科45名）で合計365名とした。

懇談会は、平成20、21年卒業生9名（看護学科5名、理学・作業療法学科各2名）と第3、4学年の在校生24名（看護学科12名、理学・作業療法学科12名）を対象とした。

### 2. 調査方法

データは、カリキュラム委員会が作成した無記名自記式質問紙により収集した。質問紙は、対象者の属性の他、(1)カリキュラムの総括評価として本学部の教育目標の修得状況についての質問：10項目、(2)カリキュラムの編成・内容に関する評価としてその満足度についての質問：17項目、(3)カリキュラムの運用に関する評価としてその適切さについての質問：10項目で構成した。さらに、意見や要望についての自由記載欄を設けた。質問に対する回答は、「非常に当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」の4件法を用いた。

質問紙の配布および回収は、卒業生には郵送法により実施し、在校生にはカリキュラム委員が教室内で配布し、回収箱への投函を依頼した。データ収集期間は、2010年10月～2011年2月であった。

懇談会は、カリキュラム委員がファシリテーターとして参加し、質問紙調査同様の3観点の質問に加えて、調査で肯定的評価の低かった項目およびカリキュラム全体に対する意見について自由に発言してもらった。開催期間は、2011年2月～3月であった。

### 3. 分析方法

質問紙は、「非常に当てはまる」と「やや当てはまる」を<当てはまる>、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」を<当てはまらない>とし、単純集計した。結果分析に際しては、80%以上が<当てはまる>と回答していた項目と80%未満のものを区別した。自由記載内容は、KJ法を用いて分析した。

懇談会の内容は、(1)教育目標の達成状況に関する意見、(2)カリキュラムの編成・内容に関する意見、(3)カリキュラムの運用に関する意見、(4)カリキュラム全体を通しての意見に分類しまとめた。

### 4. 倫理的配慮

質問紙調査では、調査の趣旨、質問紙の提出をもって調査への同意とみなすこと、調査協力の任意性、匿名性の他、データは本調査目的以外には使用しないことを説明した。特に、在校生には調査は成績と一切関係がないことを追記した。

懇談会の参加者には、質問紙調査と同様の内容に加えてI.C.レコーダーへの録音の承諾について説明し、同意書へのサインをもって承諾とした。

## 結果

### 1. 質問紙の回収率

質問紙は194部回収された（回収率53.2%）。卒業生からの回収は78部（回収率44.8%）、在校生は116部（回収率61.1%）であった。

### 2. 対象の背景

卒業生の内訳は、就業者67名、未就業者7名、その他4名であった。就業者の職種は、看護師33名、保健師3名、理学療法士16名、作業療法士15名であった。在校生の内訳は、3年生57名（看護学科27名、理学療法学科16名、作業療法学科14名）、4年生59名（看護学科38名、理学療法学科12名、作業療法学科9名）であった。

### 3. 分析結果

本報告では、質問紙調査の結果を中心に記述し、懇談会は概略を示すにとどめる。

#### 1) 質問紙調査の結果（表1）

##### (1) カリキュラムの総括評価

全対象者194名中80%以上が<当てはまる>と答えた項目は、「生命と人権を尊重する態度」（88.7%）、「人々を全人的に理解する態度」（92.3%）、「人々のニーズに応じる専門的能力」（86.6%）など7項目であった。

<当てはまる>が80%未満であったのは、「創造的態様の育成」（68.6%）、「多様な文化や価値観を認める柔軟な態度」（73.7%）、「国際社会の中で発展的に物事を追求する態度」（46.9%）の3項目であった。

##### (2) カリキュラムの編成・内容に関する評価

80%以上が<当てはまる>と答えた項目は、「専門（看護・理学療法・作業療法）に対する理解が深まる学習内容

表1 カリキュラム評価

n = 194 n(%)

質 問 項 目		当てはまる	当てはまらない
カリキュラムの総括評価	1 生命と人権を尊重する態度	172 (88.7)	22 (11.3)
	2 人々を全人的に理解する態度	179 (92.3)	15 ( 7.7)
	3 主体的に学習する態度	158 (81.9)	35 (18.1)
	4 創造的態度	133 (68.6)	61 (31.4)
	5 人々のニーズに応じる専門的能力	168 (86.6)	26 (13.4)
	6 チームの一員として他職種と協働する能力	166 (85.6)	18 (14.4)
	7 保健医療福祉の向上や発展に貢献するための能力	161 (83.0)	33 (17.0)
	8 専門職集団の発展に貢献するための態度	167 (86.1)	27 (13.9)
	9 多様な文化や価値観を認める柔軟な態度	143 (73.7)	51 (26.3)
	10 国際社会の中で発展的に物事を追求する態度	91 (46.9)	103 (53.1)
カリキュラム編成・内容の評価	1 人間理解が深まる学習内容の充実	165 (85.1)	29 (14.9)
	2 社会理解が深まるカリキュラムの充実	132 (68.0)	62 (32.0)
	3 専門(看護、理学、作業)理解が深まる学習内容の充実	173 (89.2)	21 (10.8)
	4 保健医療福祉チームの役割機能を学ぶ機会の充実	160 (82.5)	34 (17.5)
	5 視野を広げるのに役立つ学習内容の充実	145 (74.7)	49 (25.3)
	6 興味や関心のある一般教育科目の設定	84 (43.3)	110 (56.7)
	7 一般教育科目の設定数の適当さ	103 (53.1)	91 (46.9)
	8 情報処理関係の学習内容の充実	86 (44.6)	107 (55.4)
	9 コミュニケーションの力を高める学習内容の充実	121 (62.4)	73 (37.6)
	10 一般教育科目と専門科目のバランスの適切さ	115 (59.3)	79 (40.7)
	11 専門科目の開講の順次性の適切さ	130 (67.4)	63 (32.6)
	12 各学年の学習量の配分の適切さ	69 (35.6)	125 (64.4)
	13 自分の興味、関心を広げるのに適した専門科目の準備	151 (77.8)	43 (22.2)
	14 3学科を有する学部特性を活かしたカリキュラムの準備	155 (79.9)	39 (20.1)
	15 講義、演習、臨地・臨床実習の一貫性	153 (78.9)	41 (21.1)
	16 実践力を高めるのに役立つ臨地・臨床実習	171 (88.1)	23 (11.9)
	17 臨地・臨床実習の学習内容の充実	182 (93.8)	12 ( 6.2)
カリキュラム運用の評価	1 ガイダンスを含む履修指導・履修相談の適切さ	123 (64.1)	69 (35.9)
	2 1コマ60分授業の適切さ	184 (94.8)	10 ( 5.2)
	3 1日6コマの設定の適切さ	173 (89.6)	20 (10.4)
	4 シラバスの内容の適切さ	163 (84.5)	30 (15.5)
	5 シラバスの内容と実際の授業の連動	130 (67.0)	64 (33.0)
	6 複数教員の担当科目の教員間の連携	127 (65.5)	67 (34.5)
	7 科目間の連携	100 (51.5)	94 (48.5)
	8 一般教育科目を3学科合同で行った適切さ	178 (91.8)	16 ( 8.2)
	9 講義、演習の成績、評価の適切さ	172 (88.7)	22 (11.3)
	10 臨地・臨床実習の成績、評価の適切さ	166 (85.6)	28 (14.4)
	11 定期試験の時期の適切さ	173 (89.2)	21 (10.8)

の充実」(89.2%)、「臨地(床)実習の学習内容の充実」(93.8%)など5項目であった。

<当てはまる>が80%未満の項目は、一般教育科目の編成・内容に直接係るものが多く、「興味・関心のある一般教育科目の設定」(43.3%)、「一般教育科目の設定数」(53.1%)、「情報処理関係の学習内容の充実」(44.6%)であった。また、「各学年の学習量の配分の適切さ」につ

いては<当てはまる>が35.6%と低かった。

### (3) カリキュラムの運用に関する評価

80%以上が<当てはまる>と答えた項目は、「1コマ60分授業の適切さ」(94.8%)、「一般教育科目を3学科合同で行った適切さ」(91.8%)など7項目であった。

<当てはまる>が80%未満の項目は、「ガイダンスを含む履修指導・相談」(64.1%)、「科目間連携」(51.5%)な

ど4項目であった。

4) 自由記載内容の分析結果 (表2)

在校生59名、卒業生34名の計93名が記述していた (記載率47.9%)。分析の結果、10カテゴリーと38サブカテゴリー

が抽出された。

専門科目の内容・方法の改善

症例検討や技術演習など実践的な授業内容を求める内容が多かった。専門職としてのアイデンティティ形成を促す

表2 自由記載分析結果

NS:看護学科、PT:理学療法学科、OT:作業量療法学科

カテゴリー	サブカテゴリー	具体的な記載例
専門科目の内容・方法の改善	実習・臨床で役立つ授業内容の充実	入職して社会人としての責任、人の生命を預かる重みでプレッシャーに押しつぶされそうになる中、少しでも現場のイメージがつかめるよう実践的な学習であれば良かった (卒業生NS)。ROMエクササイズについて何も教わらないまま長期実習に行き不安だった (在校生PT)。治療手技の授業が少なく、実習で苦労した (在校生OT)。実習に直接結びつく内容の授業を増やすべき (卒業生OT)。
	授業方法の工夫・改善	実習への自信を持たせるため、ケーススタディの行う回数や行い方を工夫してほしい (在校生PT)。受動的な授業が多く、配布された資料を読み合わせるだけの講義はあまり意味が感じられなかったので、早い段階から調べてまとめたり、症例検討を行う方が力がつくと感じる (在校生OT)。
	専門性を高める授業の充実	臨床推論能力を養うカリキュラムがもっと用意されていれば良かった (卒業生PT)。低学年時にOT総論や概論の講義があったが、OTの歴史や理論の変遷などの内容に乏しく、現在の自分たちに求められることや時代の流れなどがわからないまま各論になってしまい、学習する意義やOTの専門性を失った (在校生OT)。
	他職種理解につながる授業の充実	他職種理解のためのカリキュラムがもう少しあると良い (在校生NS)。せっかく複数の学科がある大学なのにDr, Ns, PT, OTがそれぞれどういう視点で何を見てどんな仕事をしているのか知る機会がほとんど無い。大学にいるうちにお互いの仕事の理解や連携の大切さを体感したい (在校生PT)。
	解剖・生理の授業内容の充実	解剖、生理、運動学などを前期、後期を通して学習したかった (卒業生PT)。看護学科も解剖を見るべき！せっかくなのにもったいない (卒業生NS)。
	保健師関連の授業の検討	保健師の実習内容、課題量、プログラムを他大学と比較し検討してほしい。わかりやすく実践にいかせるような講義になると良いと思うし、国試にも生かすことが出来る (在校生NS)。
専門科目の開講時期の改善	専門科目の早期開講	もっと早く (1年前期) 専門教科をうけたい (在校生NS)。1年生の専門科目の時間が少ない。入学後すぐに専門科目がたくさん受けられると想像していたため、一般教養ばかりでモチベーションが低下した (卒業生PT)。1年次から専門科目を増やすべき (在校生OT)。
	開講順次の改善	3年の評価実習後、授業内容が実際の治療計画まで立てるものになり、前期に比べ一気に難易度が高くなったため困惑した。前期の授業内容との関連性が無く、治療方法・介入方法について学びたい (在校生OT)。評価学でのROM-MMTなど基本的な検査は2年前期で行うべき (卒業生OT)。
	3年次の過密の改善	3年前期に成人、老年、小児、母性の領域で同時にアセスメントを進めてもただ記録をうめるだけになってしまい、じっくり考えることが難しい (在校生NS)。3、4年生に専門科目のカリキュラムが密集しており大変 (在校生NS)。3年後期に大変な科目が集まりすぎているので、2年後期や3年前期に振ってほしい (在校生PT)。
	専門科目の学習進度の改善	全体的に専門科目に入るのが遅すぎる (在校生OT)。卒論のとりかかりが遅い (卒業生OT)。
実習時期・方法の改善	実習科目の集中的開講の解消	実習が3年後期につまりすぎ (在校生NS)。臨床実習について、6週間の実習期間で治療まで行うのは、時間的に厳しく身体的、精神的に辛かった。3回の総合臨床実習を4年生に一気に行うのはつらい (在校生OT)。
	実習科目の開講時期の検討	1年、2年の早いうちに臨地実習にでる機会があると良い (在校生NS)。地域実習の時期を就職時期より前に設定していたら保健師に進む人がもう少し増えると思う (在校生NS)。精神実習が3年次にあると他の実習でもコミュニケーションについての学びが生かせると思う (卒業生NS)。実習、では順序が逆の方が取り組みやすい (在校生OT)。
	実習内容による実習期間の検討	精神実習を3週間にして急性期実習を2週間にすればよい (在校生NS)。臨床実習も6週×3回よりは、7週×2回 (もしくは8週×2回) のように1回をじっくり取り組むようにした方がいいのではないかと (在校生OT)。
	実習方法の検討	実習と授業がもっとリンクしているようなカリキュラム (例えば、実習中の何日かはAM病棟、PM 学内) など充実した実習になると思う (在校生NS)。実習中に徹夜をしなければならぬのは酷。実習期間自体をもう少し長くとり、夏休み、冬休みは短くても良いと思う (卒業生NS)。
一般教育科目の内容・方法の改善	一般教育科目のあり方や授業方法の改善	一般科目について、興味を持てる科目が不足していた (在校生NS)。一般教育を履修しない人が多く、授業が成立しないものがあり残念だった。設定数、履修すべき一般科目数を増やしても良いと思う (卒業生NS)。一般教育科目は4年制大学ということもあり「学士」をとるのだから必要なのは承知してるが、単位数は必要最低限にしぼって、その分を専門科目の充実にあてたほうが有益 (卒業生PT)。1年次の一般科目がその後のために必要と思われぬものが多くムダな1年間であった (在校生OT)。一般教養のカリキュラム内容は、教科によっては昔からずっと同じ内容で行っているものもあり、現代と合っていないなと思うものもあった (卒業生OT)。
	外国語科目の再検討	一般教養の外国語は多かった (在校生NS)。第2外国語にロシア-スペイン語を設定する理由がわからない (卒業生PT)。
	外国語科目の授業方法の工夫	スペイン語やロシア語の教員が日本語をあまり話せないため、全く理解できず講義を受ける意味に疑問を感じた (在校生NS)。第2外国語が半期しかないのであまり身につかなかった (卒業生PT)。
	統計数学・情報科学の開講時期・内容の検討	情報科学は役に立ったのかよくわからない (在校生NS)。統計学の内容は、1、2年生の頃ではなく、2、3 (4) 年生の時期にしてほしい。より統計学的理解を深めたいと思い始める時期設定が有効である (在校生PT)。

過重な課題とゆとりのないカリキュラム	過重な課題量と提出時期の重複	実習や専門科目の課題量が多すぎる(在校生NS)。課題の量がどんどん増えていって、3年生になると毎日課題提出のことを考えなければいけない。眠らずに課題をやっている人もいるので、課題を減らすか、1年、2年に回して欲しい(在校生NS)。課題が集中していた時期があり、課題をこなすのに必死になってしまい、あまり力を注ぐことが出来なく残念(在校生OT)。
	国家試験勉強への影響と時間確保	4年後期に実習があると就職活動、卒論、国試等への準備時間が十分にとれないため、4年前期で実習が終わるとよい(在校生NS)。4年後期にもっと国試勉強の時間がほしい(在校生NS)。
科目連携および教員連携の改善	科目連携・教員連携の不足	専門科目が行われる2、3、4年次において、他科目でどれくらいの作業量の課題がでているか、他領域では何を学習したのかについて連携が不足している(在校生NS)。専門科目について、疾患やその治療法を学ぶ際に、同じような内容を何度も学年や科目をまたいでやることもあれば、教員から「学で習ったはずだと言われた内容が未学習である」といったこともあり、教員間の連携、カリキュラム自体やその把握がきちんとしていないのではないかと感じる場面が多い(在校生OT)。
	実習施設と教員間の連携不足	実習指導者によって評定差が激しく、納得できない部分もあった。学校側から評定の整合性をとるためのアドバイスをしてほしい(在校生OT)。
カリキュラムに関する全般的な要望	シラバスの改善	シラバスに記載されている指定教科書と実際に使う教科書が違うことがあるので、正しい内容を記載してほしい(在校生PT)。シラバスと実際の内容が全然違う(卒業生OT)。
	保健師助産師課程の選択制導入	4年次の地域実習を助産師のコースと選択できて、興味のある方へ進めるようになったら良い(在校生NS)。保健師と助産師が選択制であればよかった(在校生NS)。
	学習環境の改善	ゼミ活動を基礎、臨床講座に分けたことによって講座間の院生への質問、物品の使用許可などがしづらくなった(在校生PT)。403教室で一般教養を教えるのは環境が悪い(在校生PT)。
	定期試験時期の変更	2年後期のテストは実習後というのは大変。テストを先に行ってから実習の方が、テスト勉強で得た知識を役立てることができる(在校生NS)。
	レポート提出後のフィードバック	レポートを提出してもそのままハンコを押して終わりのものがほとんどだったので、添削してほしい(在校生OT)。レポートの提出後のフィードバックが必要だと思う(卒業生PT)。
	授業中の私語への対応	私語が多く、授業に集中出来ないことがあった。講師はもっと厳しくして良い。途中で授業を抜ける人もいた(特にPT、OT)(卒業生NS)。
現行カリキュラムの有意義性	合同科目(3学科)の有意義性	保健医療総論は、3学科合同で医療について追求できる貴重な学習が出来た。他の専門科目で何度も教わる「協働」を学べる授業で、札幌医科大学ならではの授業だと思います(在校生NS)。学部に他学科があったことはチーム医療を実現していく上でとても強みになった。他学科合同授業は続けて欲しい(卒業生NS)。3学科での保健医療総論は就職し、PT、OTとの仕事内容を理解しつつ上手く連携をはかるのにとっても役に立っている(卒業生NS)。保健医療総論など他学科合同科目が有意義であった(在校生PT)。
	対象理解の深まり	OT学科2年時の臨床実習は、障害者・児理解を深めることができ、非常に有意義な実習だった。また、OTは、福祉分野との関連が強いと思うので、その点でも参考になった(在校生OT)。
	自己表現力の獲得	看護学科の専門科目では、グループワークを何度も授業で体験し、自分の意見を述べる力や話す力がつくように思う(在校生NS)。
	一般教育・専門基礎科目の充実	一般教養や基礎(生理、解剖、運動学)は充実していた(卒業生OT)。
	60分授業の適切性	60分授業は良いと思う(卒業生NS)。1コマ60分の授業は集中力が持ち、効率的で良い(卒業生NS)。
	辛いカリキュラムの学習効果	患者第一の姿勢や自己学習力の卒業後の実感
余裕がないカリキュラムだが仕方がない		3年前期の授業は1つ1つが濃いもので、課題が重なって大変だった。2年後期のグループワークは各科目で異なるグループが組まれていたので時間を合わせてグループメンバーで集まるのが大変だった。もう少し分散されていたら楽だったとも思いますが、時間の関係やカリキュラムの組み方を考えると仕方がない気もした(卒業生NS)。各学年の授業体系に関しては2年生以上は詰め込まれていると思いますが、そういうものだと思います(在校生PT)。
他校と比較し充実したカリキュラムと学習環境		進学した学校の教育体制やカリキュラムがひどいので、卒業してからだと医大での学習環境がよく見えるのかもかもしれませんが、教員との距離も近く指導も細やかでとても恵まれた学習環境だった(卒業生NS)。卒業し他校の授業について聞き、札幌大のカリキュラムが充実していると感じる(卒業生PT)。
その他	札幌大で学べて良かった	今のままで良い(在校生PT)。札幌でまなぶことができ幸せ(在校生NS)。
	札幌大での学びは辛かった	医大に入学したことを後悔している(卒業生NS)。正直なところ「何とか4年で卒業できるように」とか、「落ちるのではないか」ばかりに脅え、のびのび学習できなかったこと、そのために入学前に抱いていた夢を追う気力がなくなってしまったことをとても残念に思っている(卒業生NS)。

授業や3学科合同授業の充実に対する意見もあった。

#### 専門科目の開講時期の改善

年次配当の不均衡と学習量の偏りを指摘する記述が多かった。なかでも専門科目の3年次および4年次集中による学習負担の解消を求める意見、専門科目の早期開講を望む意見が多かった。

#### 実習時期・方法の改善

3年次、4年次集中による過負担や就職活動・卒業論文作成・国家試験に配慮した開講時期の検討を望む記述があった。

#### 一般教育科目の内容・方法の改善

一般教育科目の専門職養成における位置づけ、外国語科目(スペイン語やロシア語)の設定理由に疑問を呈する記述があった。

過重な課題とゆとりのないカリキュラム

複数科目で同時期の課題重複、課題の多さや、学習が課題をこなすだけになり深い理解につながらないという記述があった。

科目連携および教員連携の改善

授業内容の重複・欠落、他科目の内容の理解不足、課題重複の認識不足などが指摘されていたほか、実習施設と教員間の連携不足があげられていた。

カリキュラムに関する全般的な要望

シラバスの解りづらさや実際の授業との相違、レポートに対するフィードバックを求める記述があった。

現行カリキュラムの有意義性

カリキュラムの内容・運用に関する改善意見が多かった

一方で、現行カリキュラムの高い学習効果や学びの有意義性に触れた記述もあった。

辛いカリキュラムの学習効果

在学中は課題量やゆとりのないカリキュラムに辛さや不満を感じていたが、卒業後の実務経験を通して本学での学習効果を実感したという記述があった。

その他

本学で過ごした学生生活そのものを肯定・否定する記述がわずかにあった。

5) カリキュラム評価懇談会の結果

懇談会は、看護学科で3回、理学療法・作業療法学科合同で3回の計6回行われた。1回の所要時間は平均63分であった。懇談会で得られた意見の概略を表3に示した。

表3 カリキュラム評価懇談会で得られた意見のまとめ

項目	主な意見
教育目標の達成状況に関する意見	「人間の生命と人権を尊重し全人的に理解する態度」、「主体的かつ創造的に問題や課題を提示し解決していく能力」、「対象者のニーズに応じた専門的な実践に必要な基礎的能力」は、主に実習を通して身についたと実感している。 「主体的かつ創造的に問題や課題を提示し解決していく能力」は、身についたという実感は薄い。 「保健医療福祉システムの総合的理解とチームの一員として有機的に機能する基礎的能力」や「専門職集団の発展に寄与する態度」は、保健医療総論や医療施設での実習、在宅看護実習で学んだと実感している。 「変化する日本及び国際社会の中で自己及び社会の課題を洞察し発展的に対処・追求していく態度」は、授業との結びつきが薄く学んだ実感あまりない。国際面にはもう少し力を入れ講義内容を工夫して欲しい。 セミナーを通して研究的に物事を考える力が身についた。
一般教育科目	物理、生物は試験の為に暗記という意識が強く、看護職の役割・機能との関連がわからない。 物理、生物は高校時代に学習していないと行けず躓く人がいる。 生活学は、様々な民族の生活を学んだが、看護とのつながりがわからない。 心理学系の科目は看護との関連が深いので興味をもって学べた。 心理学系の科目に興味があったが、実際はテストの為に学習で終わってしまった。 情報処理・情報科学は医療系の論文の提示や卒論の時期に学ぶなどモチベーションがないと興味がわきづらい。 情報処理系の科目の意図がわからず、その場限りのテスト対策で終わった。 統計学はもっと時間をかけて欲しかった。 手話・点字は、医療関係の教科書であったのに加え、将来出会う可能性のある対象者なのでモチベーションをもって学べた。 スペイン語は、教員が全く日本語を話せなかったので殆ど理解できなかった。 第2外国語は、履修期間が短いので殆ど身に付かなかった。 保健医療英語は、臓器の名称やカルテの読み方など実践的でわかりやすかった。 表現論は、楽しかったが専門職と結び付かなかった。 一般教育科目は選択の幅が狭く、選択なのに必修的という印象。 一般教育科目の中に試験内容が毎年同じ科目があり、授業に対するモチベーションが低くなる。
カリキュラムの編成・内容に関する意見	解剖は実際の臓器を見たり触れたりしないと実感がわかない。 基礎領域の看護過程の学習にもう少し時間をとって欲しい。 PTでは、実習前にケーススタディとグループディスカッションを行う機会を増やして欲しい。 OTでは、OSCEは学びになったがその内容が実習ではあまり役立たなかった。 職業意識を高めるような授業を増やして欲しい。 PTのゼミは、負担に思う時もあるが自分の興味関心のある学びを深めることができるので楽しさも感じている。 OTでもゼミをもっと積極的に取り入れて欲しい。ゼミ形式の授業を入れると大学院への進学率も上がると思う。 筋骨格系の授業は多いが、内部障害系の科目の時間数が少なすぎる。 実習前に精神障害者のイメージを付けが出来るような学習を入れて欲しい。
一般教育と専門科目のバランス及び開講年次	専門科目の開講を学習意欲の高い1年次にもっと開講して欲しい。 PTでは、専門科目を2年後期からもっと開講して欲しい。 OTでは、2年前期に授業が詰まり3年前期に授業が殆ど入っていないので、学習量のバランスはとれていない。 4年次の長期実習は、卒論や大学院受験、就職試験の時期と重なり負担が大きいため実習時期を検討して欲しい。
各学年の学習量の配分	3年次の看護過程の課題の重複は辛かった。特に、記録の様式が領域によって異なっており、かつ記録用紙のフォーマットが整備されておらず、記録の形式を整えるのに時間を要する。 振り返って見ると集中した実習や課題を通して、時間のない中で優先順位を考えたり期日までにこなす力は鍛えられ根性もついたと思う。
実習内容・方法	実習施設によって獲得する専門的知識や技術が違いすぎる。 実習では急性期の整形しか見ていない。将来どんな対象者と会うか分からないので、一部だけ学ぶのではなく全体的に学びたい。

3学科合同科目	保健医療総論は印象深く、OTとPTの視点や考え方の違いを理解することができた。札医大独自の意味のある科目だと思う。
	保健医療総論は、専門職間の理解に役立ったし印象深く残っているのでは是非続けて欲しい。
	保健医療総論自体の開講の意味がわからなかった。
	3年次の保健医療総論は、OT・PTが意見を述べにくい内容だった。あまり考えたことのない内容だったので、勉強にもなった。
	4年次の保健医療総論は自分の看護の視点も明確なので勉強になった。
カリキュラムの運用に関する意見	4年次の保健医療総論は、実習直前の時期なので、効果的なのか疑問である。
	教員から習っていないのに「習ったでしょう」と言われたり、内容が重複したりするので連携は十分ではない。
	授業中に「習ってないの?」とか「ここから教えないといけないのか」と言われると、教員間の連携はないのだと思う。もしかすると教えられていない内容もあるのではないかな。
	教員は他科目の学習内容を知らないまま教えている。特に、2年次と3年次の教員の連携が良くない。
	科目が違うのに学習内容の重複が3回程あった。教員間の連携は十分ではない。
	臓器系の解剖を学習していないのに、学習したということで内部障害の科目に進んでしまう。自己学習するしかない。
	授業内容の重複や欠落があった。1つの科目で複数教員が担当している場合、科目の目的がわからなくなる。
	臨床治療論、 、 のつながりが見えずバラバラな感じがする。
	一般教育科目は専門科目との関連がわからないので、学習するモチベーションが低くなる。
	一般教育科目と専門科目の内容がもっとリンクしていれば、興味をもって学べと思う。
領域でアセスメントの枠組みが違うので、領域や教員の考えに合わせるのが大変。	
3年前期では課題量が多く提出時期が重複していた。学生から訴えると提出期限を調整してくれる教員もいたが、もう少し教員間で連携して欲しい。	
履修指導	一般教育科目は単位稼ぎという位置づけになっているので、オリエンテーションで科目の説明をもっと欲しい。
シラバスと授業の連動	シラバス通りに授業が行われることの方が少ない。
全体を通しての意見	教育内容・方法への要望
	社会人として目上の患者さんに対応する上での言葉遣いやマナー、お礼状の書き方などの学習と取り入れて欲しい。
	実習で学生が対象者とトラブルになるケースが多いと聞くので、1、2年次に患者と接する態度や言葉遣いなど学ぶ科目を設定してはどうか。
	“患者をまたいではいけない”など、専門職としての常識、注意点、態度を知らずに実習に行っているの、1年次で教えて欲しい。
	医療という狭い世界にいますので社会人としての意識が麻痺する傾向にあると思うので、他職種や社会を知る機会を増やすと良い。
	現場の看護職の話しを聞く機会を持って欲しい。栄養学を授業科目に入れて欲しい。
	実習前に患者と話すという体験してから実習に行けると良い。
	学習環境
	一般教育科目で学生が100人受講する講義は、環境的に良くない。特にフラットな場所だと前が見えず興味関心が持てない。
	見学でもいいので、もう少し附属病院と関わりたい。
科目名称	同じ専門領域で科目名称が と となっているが分かりづらい。科目内容が分かる名称にして欲しい。
春期休暇	2、3年次は3月中旬まで授業があるので、もう少し春休みを長くとれるカリキュラムにして欲しい。
再実習	他大学では実習単位を落としても再実習の機会を設けている。札医大の様に実習を落としたり留年というのは大変厳しいと感じる、再実習など何らかの救済措置を検討して欲しい。
指導体制	少人数の丁寧な指導を継続して欲しい。

## 考 察

カリキュラム評価はいくつかの教育機関から報告されており、他大学では質問紙調査の回収率が20～30%台にとどまり回収率向上に向けた評価方法の改善が課題にあげられている<sup>2)・3)</sup>。今回の調査の回収率は53.2%と高率であったことに加え、自由記述の記載も多かったことから、本学部生のカリキュラムに対する関心の高さを窺うことができた。

教育目標の到達度に関して学生は、10項目中7項目で80%以上が修得できたと回答していた。教育目標の修得状況について肯定的評価の高かった項目は、「生命と人権を尊重する態度」、「人々を全人的に理解する態度」、「人々のニーズに応じる専門的能力」や「専門職集団の発展に貢献する態度」などであり、本学部の教育は医療実践に直接かわる専門職としての能力を養うことに関しては概ね達成されていると評価できる。

一方、肯定的評価が80%未満の項目は「創造的態度」、「国際社会の中で発展的に物事を追求する態度」、「多様な文化や価値観を認める柔軟な態度」であり、特に国際的視野に関して到達度が低いと感じていることがわかった。このことは教育目標の「社会理解が深まる学習内容の充実」や「視野を広げるのに役立つ学習内容の充実」が低い評価結果であったことと関連していると考えられる。本学の建学の精神である「地域医療への貢献」の具現化のためには、社会的な位置から物事を捉える社会認識の発展や社会化を促す教育内容の充実は必須であり、カリキュラムを改善する上で特に重視しなければならない点といえる。

一般教育科目の編成と内容に対する肯定的評価は各項目とも40～50%であり、満足度は高いとは言えない状況であることが示された。他大学のカリキュラム評価においても一般教育科目の評価は低く、改善の必要性が指摘されている<sup>2)・4)</sup>。この背景には、学生は看護、理学・作業療法の専門的知識についての学習に期待をもって入学してくるが、



1年次の開講科目の多くは一般教育科目であり、学生の期待と学習内容に不一致があると推察される。学習に対する動機付け、態度、関心が、カリキュラム評価に影響を与える要素といわれており<sup>1)</sup>、学生が専門職を目指す上で一般教育科目を学ぶ必要性を正しく認識、理解することが重要である。懇談会においても「一般教育科目と専門科目の関連がわかれば一般教育科目に対する学習モチベーションが上がる」という意見が多く述べられており、一般教育科目の履修ガイダンス等の充実により一般教育科目に対する学生の評価は改善される可能性があると考ええる。

カリキュラムの過密性や開講時期を課題にしている大学からの報告はいくつかあり<sup>5)~7)</sup>、本学部においても同様の傾向であった。今後のカリキュラム改訂にあたっては、専門科目の早期開講と配当年次のバランスを検討し、学習上のゆとりを生み出す進度設計を検討する必要がある。

専門科目の編成と内容に関しては、ほぼ80%以上の肯定的評価を受けており、概ね高い評価を得ることができた。特に、臨地(床)実習に対する評価は高く、学生は現場での学習に意味を見いだしていることが示唆された。一方、講義・演習・実習の一貫性に対する肯定的評価は80%未満であり、実習の満足度に比べて低い結果であった。自由記載や懇談会では臨床実践に役立つ学内学習の不足が指摘されており、学生は臨床場面に直接役立つ演習の充実やリアリティのある学習方法を求めていることがわかった。これらの結果から、限られた教育時間数の中で医療現場との遊離をできるだけ少なくし、学生の実践能力を養うための授業内容や形態、教材の工夫など教育方法の検討を行う必要があると考ええる。

教員間の連携について約40%の学生が適切でないと回答しており、懇談会においても、教員間の連携不足による授業内容の重複・欠落が指摘されている。教育目標達成に向けての科目間の連携は、カリキュラム評価の重要な基準の1つであり<sup>8)</sup>、講義間のみでなく講義と演習、実習を含めた有機的な連携強化を図るとともに、専門領域を超えた教員間のコミュニケーションの重要性を教員自身が認識し、学生の満足度が高くなる科目運用を検討する必要がある。今回の調査では、対象者の所属学科の人数の偏りが結果に影響している可能性があるため、今後は各学科の特徴を踏まえたカリキュラム評価を行っていく必要があると考ええる。

## ．おわりに

保健医療学部の教育目標の達成状況から教育効果を検証する目的で学生を対象に質問紙調査と懇談会を行った結果、学習者側の視点からみたカリキュラムの問題点や課題が明らかになり、多くの示唆を得ることができた。特に、懇談会においてカリキュラムに関する学生の意見を直接聴取できたことは、質問紙調査だけでは得られない貴重な意見を得る機会となった。

今後は、今回の評価結果を活かした教育改善を図っていくことがカリキュラム評価を実施した目的に適うものと考ええる。

## 文 献

- 1) Gertrude T., Marjorie S.: Curriculum Process in Nursing A Guide to Curriculum Development, Prentice-Hall, 1982. (近藤潤子, 小山真理子訳: 看護教育カリキュラムその作成過程. 第1版, 東京, 医学書院, 1988, p95-102)
- 2) 小澤道子, 助川尚子, 菊田文夫他: 卒業時の学生によるカリキュラム評価. 聖路加看護大学紀要26:133-143, 2000
- 3) 坂井さゆり, 定方美恵子, 柳原清子他: 看護学専攻卒業生のカリキュラム評価に関する調査報告. 新潟大学医学部保健学科紀要9(2): 153-159, 2009
- 4) 黒田裕子, 濱田悦子, 池川清子他: 日本赤十字看護大学における第2次カリキュラム評価に関する調査報告. 日本赤十字看護大学紀要16: 45-53, 2002
- 5) 日沼千尋, 田中美恵子, 諏訪茂樹他: 本学部のカリキュラム評価 - 6つの教育目標の到達度に関する第1回生の自己評価を中心として -. 東京女子医科大学看護学部紀要5: 57-65, 2002
- 6) 菱沼典子, 及川郁子, 長江弘子他: 2000年度から2004年度カリキュラム総括評価 - その2 科目評価について -. 聖路加看護大学紀要32: 65-69, 2006
- 7) 奥田美恵, 関谷由香里, 矢野朱他: 第1期卒業生および教員による愛媛県立医療技術大学カリキュラム評価. 愛媛県立医療技術大学紀要5(1): 75-86, 2008
- 8) 田島桂子: 看護学教育評価の基礎と実際 第2版, 東京, 医学書院, 2009, p173-182